

正壹演泛水觀行橋頭遭天暑熱上岸風涼有一老嫗避舍獻地壹演便在其申

〔空穗物語祭の使〕かゝるほどに六月の比ほひにもなりぬ大將はいけひろくふかく色々のうへ
きしにておひたり水のうべにえださし入などしたるなかじまにかたはしは水にのぞきか
たはしは志まにかけていかめしきつり殿つくられておかしきふねどもおろしうきはしわた
しあつき日ざかりには人々すみなどし給ふ十二日いとまの日にてまいりたまはぬをつり
どのにてけふすませたてまつらんけうあらんくだものなど給へよなどきしをきたまひ
てつりどのにいで給ひぬ

〔源氏物語常夏〕いとあつき日ひんがしのつりどのにいで給てすみ給中將のきみもさぶら
ひ給志たしき殿土人あまたさぶらひてにじ川より奉れるあゆちかき川のいしぶしやうのも
のおまへにててうじてまいらす

〔江談抄雜事〕忠文炎暑之時不出仕事

又云忠文秋冬者勤陣直夙夜匪懈炎暑之時請暇向宇治別業以避暑爲事或時被髮洗于宇治川云
云

〔本朝文粹序〕夏日於左親衛源相公河陽別座同賦何處堪避暑

慶保胤

何處堪避暑河陽館勝境矣誰家好逐涼源相公別第焉古松老檜蔽其天青苔白石鋪其地從平旦及
黃昏有清風無赤日移床連榻優息其陰蓋颯然冷然如八月如九月矣夏天炎居去此何求袁氏昔有
河朔之飲相公今有河陽之期食客保胤聊記勝遊云爾

〔宇治拾遺物語序〕世に宇治大納言物語といふ物あり此大納言は隆國といふ人なり西宮殿高明
の孫俊賢大納言の第二の男なり年たかうなりてはあつさをわびていとまを申て五月より八
月までは平等院一切經藏の南の山ぎはに南泉房といふ所にこもりゐられけりさて宇治大納